

日本の経験を伝え、途上国のリーダーを育成

JICAは、2018年10月、開発途上国の発展を支える人材の育成を目的に

「JICA開発大学院連携」(JICA-DSP)を本格的に開始しました。大学と連携し、各大学の通常の授業科目に加えて、日本の近代の開発経験と戦後の援助実施国としての知見の両面を学ぶ機会を提供します。

JICA-DSPにより日本への理解を深めた開発途上国からの人材が、帰国後に母国の発展に寄与し、リーダーとして活躍することで、両国間の関係を中長期的に維持・強化することが期待されます。

JICA-DSPは、JICAの人材育成事業の枠組みで来日する研修員のうち、日本の大学の学位課程の在籍者(JICA留学生)を対象としています。具体的には、以下の2つのプログラムを導入し、JICA留学生は各大学が定める既存の修士課程(または博士課程)を履修するとともに、この2つのプログラムのいずれかまたは双方を履修します【→ 下図を参照】。

①日本理解プログラム(共通プログラム)

JICA留学生に対して日本の近現代の発展と開発の歴史を大学の枠組みを超えて広く提供するため、JICAが協力大学と共同で実施する短期集中型のプログラムです。2017年度から政策研究大学院大学の協力を得て実施しており、2018年度は134名が受講しました。

また、より多くのJICA留学生が日本理解プログラムを学ぶ機会が得られるよう、放送大学学園と連携して共同制作番組「日本の近代化を知る7章」の作成に取り組み、2019年3月からBS231チャンネル「BSキャンパスex」で放映が開始されました。

将来的には、すべてのJICA留学生が受講できるよう検討を進めます。

②各大学におけるプログラム(個別プログラム)

JICA-DSPに参加する大学の研究科の学位課程のなかに設置され、当該大学で就学するJICA留学生が学ぶことができる、近代日本の開発経験(日本自身の開発とODAとして他国に協力した経験を含む)についての授業科目です。

大学の授業科目において、JICA留学生が専門分野における日本の開発経験などをより深く理解することを狙いとしており、政治、法律、経済、金融から、社会開発、科学技術やイノベーション技術まで、幅広い領域を含んでいます。



講義終了後も北岡理事長を交えて活発に意見交換が行われた(日本理解プログラム)

JICA開発大学院連携

- ①日本理解プログラム 共通プログラム
 - JICAが協力大学と共同で実施する短期集中型のプログラム
 - 日本の近代化経験とその背景・特徴、戦後ドナー経験等をバランスよく伝えることで体系的な日本理解を促進

領域	政治・法領域 政治、法、行政等	経済領域 経済、金融、産業開発、経営等	社会開発領域 教育、保健、農業経済、国土開発、環境、防災等	科学技術・イノベーション領域 理学、工学、医学、農学、ものづくり、IT等
②各大学におけるプログラム(授業/科目の追加や改編)	●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科	●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科	●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科	●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科 ●大 ▲研究科
③各大学の既存の修士課程	●大 ▲研究科	●大 ▲研究科	●大 ▲研究科	●大 ▲研究科

近代日本の開発経験に関する授業科目例

政治・法・経済領域	社会開発領域	科学技術・イノベーション領域
<ul style="list-style-type: none"> ●行政制度の発展 ●対外援助政策 ●経済発展と国際的発展 ●財政と行政 ●企業金融と金融システム 	<ul style="list-style-type: none"> ●公害克服の経験や地球規模環境問題への取り組みと貢献 ●阪神淡路大震災などを踏まえた防災対策や仙台防災会議などへの日本の貢献 ●(各大学所在地における)地域開発 ●都市交通計画と政策 	<ul style="list-style-type: none"> ●産業技術論(技術イノベーション) ●工業の発展の歴史と技術戦略 ●高度技術教育 ●資源エネルギー戦略論